

令和5年度小松市立安宅中学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p><安心・安全な学校・学級を築き、生徒の主体性を育む。></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒理解部会を毎週開催して情報交換し、生徒に前向きな声掛けや仕掛けをタイムリーに行う。 当たり前前の行動をしっかり見取り、褒める認める言葉をかける。 他者を傷つける行為や言動には、毅然とした対応をする。 学校行事・生徒会活動を活性化させ、生徒主体となって活動できる場を増やし、自己有用感の向上を図る。 生徒アンケートを行い、「学校が楽しい」という問いに対し「楽しい」と答える生徒が90%を超えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週1回の生徒理解部会でしっかりと情報共有ができていた。また、対応の仕方等も協議し、組織的な対応ができていた。 些細な変化を見つけ、褒める・認める、前向きな声掛けができていた。今後もさらにアンテナを高くして、生徒のプラスもしくはマイナスの変化もしっかりと見取り、意図的な声掛けをしていきたい。 学校が楽しいと回答した生徒の割合が88%と目標を達成できていないので、行事等で生徒主体の活動を増やし、生徒を意図的に活躍させ、自己肯定感や自己有用感をさらに高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解部会を定期的に行い、しっかりと情報共有ができていた。また、会の中で事前・事後の対応を協議し、組織的に対応できた。 各種アンケートの結果より、何事にも前向きに取り組み、ポジティブな感情で学校生活を送っている生徒が増えた。日頃から生徒への温かい声掛け・指導・支援を継続していることが成果につながったと考えられる。また、生徒の自治力を高めるために、生徒主体で皆が活躍できるような仕掛けをすることにより、多くの生徒が充実した学校生活を送ることができていた。今後も自己肯定感や自己有用感を高める取組を続けていきたい。 固定された人間関係でつらい思いをしている生徒も少なからずいるので、集団活動を通して他者の意見に触れ、人間関係を広げ深めるエンカウンター等の活動も積極的に実施していきたい。
	<p><適切な支援に向けて工夫を行う></p> <ul style="list-style-type: none"> 個別の配慮や支援を必要とする生徒への支援を実際に行いながら、より適切な支援に向けて個に応じた支援計画・指導計画を作成し、全教職員で共有する。（ファイルの統一） 小学校と連携を密にし生徒理解や支援のスムーズな引継ぎを行う。（3～5月、その他必要に応じて） 特別支援教育支援員による支援計画を作成し、計画に即して支援ができるようにする。 生徒の理解や支援について、教育支援委員会を開き、よりよい支援に繋げる。 必要に応じて、関係機関との連携や専門相談員の派遣要請を行い、その際に行った相談やいただいた助言を支援に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の配慮や支援を必要とする生徒への支援を実際に行いながら、保護者とも連携を図り、「個に応じた支援計画・指導計画」を作成した。 支援計画の情報を全教職員で共有をしている。プロフィールシートのある生徒は緑色のファイル、ない生徒はオレンジ色のファイルで統一し、一目で分かるようにした。 5月に小中連絡会を行い、1年生の支援が必要な生徒について情報交換を行った。 7月28日に教育支援委員会を開き、プロフィールシートが作成されている生徒の情報交換を行い、次年度の就学相談の検討を含め、今後の支援に繋げるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の配慮や支援を必要とする生徒への支援を実際に行いながら、保護者とも連携を図り、「個に応じた支援計画・指導計画」の修正をした。 「個に応じた支援計画・指導計画」のファイルを色別に統一し、一目で分かるようにした結果、学年間の連携がスムーズに行えるようになった。 特別支援教育支援員による支援計画を作成し、計画に即した支援を行うとともに、見通しがもてるようにした。また、教育支援委員会を開き、情報共有することで、支援の共通実践ができた。 学習に困難を抱える生徒の相談を行うために、専門相談員の派遣を要請した。専門相談員のアドバイスを受け、個別最適な学習方法を考え、情報を共有した。今後も生徒の現状にあった支援を続けていきたい。
道徳教育	<p><道徳教育の向上を図り、多面的・多角的な価値観を涵養する。></p> <ul style="list-style-type: none"> 教材分析や発問、言語活動の工夫等、「考え・語り合う道徳」の活性化に向けた授業改善を行う。 普段の学校生活の中で、良い姿をほめたりするなど、意識的な声掛けを行うことで生徒の道徳性を養う。 道徳ノートや授業の様子など生徒の学びを蓄積し、評価に活用することで、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。 道徳の時間によりよい生き方を考える生徒が85%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中では、小学校や昨年度までの積み重ねから、お互いの考えを話し合う姿が見られた。「考え・語り合う道徳」に向けて、更に交流の仕方など、教員の中での共通理解を図りたい。 「先生は、よいところを適切に認めてくれる」の項目では95%の生徒が肯定的な回答であった。また、継続して行っているストック運動では、生徒同士でも良い姿を認め合う姿があった。 道徳ノートを活用して生徒の学びを蓄積することで、生徒の考えの変容の把握や評価に役立てることができた。 道徳の時間によりよい生き方を考えていると答えた生徒の割合が90%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「先生は、よいところを適切に認めてくれる」の項目では、95%→98%となった。ストック運動も継続して行い、より具体的によいところを認め合う様子が見られた。また、「道徳の時間に授業の内容から生き方について考えている」の項目では、90%→96%となった。ローテーション授業を行い、指導力の向上やT2で生徒の道徳性に関わる成長の様子を多面的・多角的に把握することができた。 教職員へのアンケートから、交流の仕方を共有し、授業の充実を図った。夏休みには安宅小学校で行われた校内研修会に参加し、主体的に参加する道徳について考えた。 道徳ノートを活用し生徒の学びを蓄積することで成長の様子を把握することができ、評価に生かすことができた。 語り合い深めるていくことが課題として残った。今後は共通の実践を行い、より生徒同士で深め合い、道徳性を養う取組を行っていきたい。
	<p><情報モラル教育を推進し、情報手段を適切に活用できる能力を育成する></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心として、本校の現状を踏まえた情報モラルの意識向上に向けた取組（安中ネチケットの再考や呼びかけ・啓発など）を行う。 技術・家庭科の授業などにおいて、継続的に情報モラルについて考える機会を設け、意識を高める。 生徒アンケートを基に評価し、SNSとの向き合い方やネットトラブルに対する意識についての項目において、意識している生徒が90%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の情報モラルに関する活動は、12月の安中サミットでも取り上げる予定である。全校生徒が一つのテーマについて情報交換・討議することを通して情報モラルの意識を高めていきたい。 技術・家庭科の授業だけでなく、6月に全クラスの学活でSNSの使用に関する情報モラルの授業を行った。生徒にとって身近なSNSを取り上げ、自分ごととして考えられるように活動を工夫して指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> 12月に行われた安中サミットでは、テーマを「思いやり」としたため、情報モラルについて全校生徒で考えることはしなかった。今年度は生徒会として情報モラルについて啓発活動を行うことができなかつたので次年度取り組んでいきたい。 6月に学活で行った全校対象の情報モラルに関する授業では生徒にとって身近なSNSについて、具体的な事例を基に考えさせることができたため、非常に効果的だった。次年度も情報モラルについて考える授業を全校で統一して行いたい。 「ネットトラブル防止のために家庭で時間やルールを決め、スマホを使用している」という項目において、肯定的な回答の割合に学年間差がある。今後は生徒への指導と保護者への情報発信を通して、情報モラルの意識を高めていきたい。
保健健康教育	<p><心身の健康></p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの健康・安全・食に関心を持ち、快活な学校生活を送ることができる。 生活習慣についてのアンケートを実施し、生活習慣の現状を把握する。 自分の生活習慣の課題を理解している生徒が80%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会で生活・運動習慣アンケートを実施し現状を把握した。9/28の学校保健委員会では「目指せ運動能力UP！～生活・運動習慣から見直そう～」をテーマにアンケート結果を取り上げる。生徒・保護者・学校が、運動機能の課題やメリットを共有することで、生活・運動習慣改善に取り組む動機づけの強化を目指す。 図書委員会と連携し「規則正しい生活習慣」を目指す本の紹介を掲示し、啓発を行った。 自分の生活習慣の課題を理解している生徒は80%以上であったが、自身の生活習慣を振り返る機会が少なかったため、委員会活動や保健指導等を通して、課題を理解する機会を定期的に設けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に睡眠リズムチェック週間を実施し、自分自身の生活習慣の課題を理解する機会を作った。 学校保健委員会運動器機能向上をテーマにした企画を実施し、生活運動習慣の改善に向けた動機づけを行った。事後のアンケートでは、85%の生徒が生活・運動習慣の改善に向上心を持って取り組むことができたことと回答した。 12月には「安中手洗い大作戦」を実施し、上位クラスの表彰を行った。学校全体で感染症防止等の意識の向上を図る機会となった。「安中手洗い大作戦」の結果から、90%以上の生徒が清潔はハンカチを持ってきていることが分かり、自ら快活な学校生活を送ろうとしていることが伺えた。今後は個に応じた保健指導の向上を目指していきたい。
	<p><情報発信を行い、家庭教育の充実を図る></p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新、コドモンの発信、各種たよりの発行を積極的に進めていると感じている保護者を90%以上にさせる。 学校の様子がよくわかると感じている保護者を90%以上にさせる。 学校と家庭、地域が連携し、三位一体で教育を行うことを目指し、学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じる保護者を90%以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの定期的な更新やコドモンの積極的な活用により、保護者アンケートでは98%が肯定的な回答であった。（昨年度95%）また、PTA役員会で協議し、紙媒体の配付するものと電子媒体の配付のみのものを決め、発信することができた。 学校の様子に関わる設問も肯定的な回答が90%を超えているものも多かった。しかし、生活習慣の課題の共有に関しては、肯定的な回答が88%という結果であった。学年全体や個別の生徒対応について、家庭との連携をさらに密にしていく必要がある。 学校・家庭・地域の連携及び子どもの生活習慣での課題を明らかにするという点では、90%の保護者が肯定的な回答であり、目標指数を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの定期的な更新やコドモンの積極的な活用により、保護者アンケートでは98%が肯定的な回答であった。次年度もコドモンを活用して、紙媒体での配付を削減していく。 学校の様子がわかると感じている保護者も90%以上であった。これは、個別の生徒対応を丁寧に行ってきた成果と考える。 学校、家庭、地域が連携して子どもと育てていると感じている保護者は87%で昨年度より12%増加したが、今後は、特に地域への発信や地域との協力・連携を進めていく必要がある。
読書教育	<p><読書に親しみ、豊かな心を育む></p> <ul style="list-style-type: none"> 10分間の朝読書やブックラリーの時間を心静かに過ごせる環境をつくる。 図書委員会活動では、生徒の企画を大切にしながら、委員会活動を活性化させる。 月に一度、図書委員が校内放送を用いて、全校生徒に向けてお勧めの本を朗読することで、読書活動を積極的に推進する。（ブックラリー） 学級文庫を充実させることで、生徒が様々なジャンルの本を読む機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も、落ち着いた雰囲気、静かに朝読書の時間を過ごせるようになってきている。 ブックラリーは、図書委員1～2名が、月一回校内放送を用いて、お勧めの本の読み聞かせを実施している。ブックラリーで読んだ本や作家の本を図書館に展示することで、生徒の読書の幅が広がっている。 図書委員会は、月に一度イベントを企画し、「利用人数を増やす」取組を続けている。 階段の踊り場や図書館の展示スペースを使って、情報を発信することができた。また、多読者には表彰を行い、読書活動の推進を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間は、心静かに本を読むことができた。基本的には、学校図書館で借りた本か、学級文庫の本を読むことになっているが、生徒の選書の技術の向上が今後の課題である。 学校図書館では月に一回イベントを行った。学校図書館を訪れる生徒数を増やすため、図書委員のメンバーで企画を考えて実施した。そのため、利用人数は増加している。 階段の踊り場や図書館内の展示スペースでは、季節に合った掲示や情報を発信することができた。学校全体が明るい雰囲気になるため、次年度も継続していきたい。また、多読者の表彰も意欲向上に繋がるため、継続して行きたい。
	<p>家庭学習時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間が短くても効果がある場合もあるため、課題の出し方の工夫や全体の数字をあげる取組などを推進していく。 あたたか検定などよい取組があるので、小中で連携して取り組んでいくとよい。 丁寧な挨拶について コロナの影響で声は小さいが、挨拶はきちんとしている。小学生は大きな声で挨拶をしてくれるが、中学生はうつむきながら挨拶をする生徒がいるなど、個人差が大きい。やらされているという感じを持たないようにしてほしい。 教員の時間外勤務時間について 中間評価に比べて、時間外勤務時間が減少したことはよい。業務が多すぎて体調を崩す人もいるため、地域に任せられることは地域に任せたい。 生徒指導について 褒めて、自己肯定感、自己有用感を伸ばしていることがとてもよい。いじめについて、毎月のアンケートや生活ノートなどで未然防止、早期発見をしていることが分かった。 学力向上について 取組は理解できたので、安宅中として、または、個人としての目標値を定め、客観的に検証できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間について 時間が短くても効果がある場合もあるため、課題の出し方の工夫や全体の数字をあげる取組などを推進していく。 あたたか検定などよい取組があるので、小中で連携して取り組んでいくとよい。 丁寧な挨拶について コロナの影響で声は小さいが、挨拶はきちんとしている。小学生は大きな声で挨拶をしてくれるが、中学生はうつむきながら挨拶をする生徒がいるなど、個人差が大きい。やらされているという感じを持たないようにしてほしい。 教員の時間外勤務時間について 中間評価に比べて、時間外勤務時間が減少したことはよい。業務が多すぎて体調を崩す人もいるため、地域に任せられることは地域に任せたい。 生徒指導について 褒めて、自己肯定感、自己有用感を伸ばしていることがとてもよい。いじめについて、毎月のアンケートや生活ノートなどで未然防止、早期発見をしていることが分かった。 学力向上について 取組は理解できたので、安宅中として、または、個人としての目標値を定め、客観的に検証できるとよい。 	